

- 1 生態系に応じた自然環境の保全と再生
- 2 野生鳥獣対策と外来生物対策への取組
- 3 自然とのふれあいの拡大

■現状と課題

- 本県は本州のほぼ中央に位置し、標高差が2,500mを超えるなど、変化に富んだ地形を有しています。この県土に利根川を軸とする河川が葉脈のように広がり、恵まれた水系を背景としながら、多種多様な野生動植物が生息・生育しています。
- 農林業などに伴うさまざまな人間の活動を通じて二次的な自然環境が維持されてきましたが、中山間地域を中心に管理や耕作の放棄などの大きな環境変化を受け、生物多様性の劣化が懸念されています。
- 「群馬県の絶滅のおそれのある野生生物(県レッドデータブック*1)」平成24(2012)年改訂版の掲載種数は表1のとおりで、平成12(2000)年の初刊行時より増えています。
- 「群馬県希少野生動植物の種の保護に関する条例(種の保護条例)」を平成26(2014)年12月に制定し、平成27(2015)年8月には特に保護を図るべきものとして11種の野生動植物を、当該条例に基づき特定県内希少野生動植物種*2に指定しました。
- 河川に生息する多くの魚は、河川の本流・支流を季節によって移動しながら生息していますが、河川には砂防堰堤や洪水調節ダムなど様々な河川横断構造物が設置され、魚類の遡上降下の妨げになっている場所が数多く存在しています。
- 河川改修において、川の作用でもともと形成されていた多様な自然環境が失われることや、生物の生息環境にダメージを与えることがあります。
- 尾瀬は平成17(2005)年11月、渡良瀬遊水地は平成24(2012)年7月、芳ヶ平湿地群は平成27(2015)年5月に、湿地とそこに生息・生育する野生動植物の保全と賢明な利用の促進を目的としたラムサール条約*3に基づく国際的に重要な湿地として登録されました。
- 特に、美しい自然と貴重な生態系を持ち、自然の宝庫と言われている尾瀬は、過去において幾多の開発の波にさらされましたが、その都度、人々の懸命な努力により守られてきました。また、ごみ持ち帰り運動の発祥の地でもあることから「自然保護の原点」と言われており、環境教育の場としても優れたフィールドです。
- 尾瀬は、年間30万人を超える入山者が訪れ、入山者の適正な利用と自然環境の保全とのバランスを図ることが大きな課題です。
- 環境に関する県民アンケート結果では、生物多様性について「よく知っている。」は13.7%にとどまり、内閣府の世論調査結果(平成26(2014)年)より3.0ポイント低い数値となっています。ただし、「意味は知らないが、言葉は聞いたことがある。」について、県民アンケート結果では48.6%で、世論調査結果を11.1ポイント上回りました。
- 生物多様性の保全に対する取組の支持について、環境に関する県民アンケート結果では「生活の便利さがある程度制限されても、生物が生息等できる環境の保全を優先する。」は26.3%でした。

表1：県レッドデータブック掲載種数

区 分	絶滅	野 生 絶 滅	絶滅危惧			準絶滅 危 惧	情 報 不 足	合 計	
			Ⅰ 類		Ⅱ 類				
			A類	B類					
植 物	53	2	217	134	122	46	59	633	
動 物	哺乳類		3		1	9	13	26	
	鳥類		3	12	5	14	52	86	
	爬虫類					2	3	1	6
	両生類		1			5	2	2	10
	淡水魚類	7		3	1	5	6	4	26
	昆虫類	1		38		53	83	125	300
	クモ類						4	6	10
	甲殻類						4	1	5
	陸・淡水産貝類	1		24		15	10	5	55
	その他動物					4	1		5
		9		85		90	136	209	529
合 計	62	2	436		212	182	268	1,162	

■ 方向性

- 希少野生動植物の保護を進めるため、県レッドデータブック改訂版等を活用し、自然環境や動植物の生息・生育状況等のモニタリングの実施、掲載種やその絶滅に向かわせている要因の周知などに努めます。
- 県レッドデータブック掲載種の増加や、掲載種においては絶滅のおそれの度合いが高まらないように、種の保護条例の適切な運用に努めながら生息・生育環境の保全と盗採や違法捕獲の防止を進めます。
- 人々の「いのち」と「暮らし」を支える生物多様性について、一層の県民の理解促進に努めます。
- 河川の縦断的連続性を確保するために、必要に応じて河川横断構造物に魚道を整備し、魚類の生息環境の改善を図ります。
- 河川改修にあたっては、目的である治水機能を確保するとともに、河川が本来有する河川環境及び自然環境面での機能が十分に発揮されるような整備に努めます。
- 尾瀬における環境負荷を軽減するとともに、適正利用を推進するため、鳩待峠口への利用集中の是正を図ります。
- 尾瀬を通して群馬の子どもたちの自然を守る意識を醸成し、郷土を愛する心を育むことを目的とした環境教育として、「尾瀬学校」を推進するとともに、より安全で効果的な実施方法等について、検討します。
- 尾瀬の生態系を維持するため、調査研究や、植生回復を実施します。